

クラウドクレジット・ファンディング合同会社

2023年4月14日

【円建て】ユーラシアオンライン金融事業者ファンド9~25号 【ロシアルーブル建て】ユーラシアオンライン金融事業者ファンド9~28号 【ユーロ建て】ユーラシアオンライン金融事業者ファンド1号~3号 の運用状況につきまして (2023年4月期)

投資家のみなさまにおかれましては、平素より格別のお引立てを賜り誠にありがとうございます。掲題のファンドシリーズ各号（以下、「本ファンドシリーズ」といいます。）につきまして運用状況をご報告申し上げます。

【本レポートの要旨】

<本ファンドシリーズの現状>

ロシア・ウクライナ間の戦争が長期化するなか、特にロシア政府およびロシア中央銀行による送金規制の影響で、本レポート配信の時点では返済開始時期の見通しが立っていません。

<LIME社グループの状況>

本ファンドシリーズの貸付先であるLIME社グループ（後述）は、2022年2月以降に抑制した個人向け融資の実行を、徐々に回復させています。ロシアのマクロ経済環境は、2022年2月時点で予見されたものよりも深刻ではない一方で、不確実性は依然として大きいため、仮に送金規制が解除される場合でも一定額が回収不能となる可能性があります。

<代替回収方法の確保について>

エストニアグループ会社（後述）は当初想定した回収方法をとれず、代替方法としてカザフスタン経由の送金を検討しています。これまでにLIME社グループがカザフスタン法人の設立と銀行口座の開設を完了し、ロシア中央銀行およびカザフスタンの規制当局から送金の承認を得るべく提出書類を準備しています。ただし、それらの認否およびその判明時期は不透明です。

1. 出資対象事業の概要

ご投資いただいた出資金の用途

(i) 本ファンドにおいてクラウドクレジット・ファンディング合同会社（以下「本営業者」といいます。）

は、お客様にご投資いただいた出資金をクラウドクレジット株式会社のエストニア子会社（Crowdcredit Estonia OÜ。以下「エストニアグループ会社」といいます。）に対して貸付けを行いました。

(ii) エストニアグループ会社はこの借入金を原資として、キプロス共和国に籍を置く金融事業者である LIME CREDIT GROUP LIMITED（以下「LIME 社」といいます。）へ貸付けを行いました。

(iii) LIME 社への貸付けに対しては、LIME 社グループの中核企業である MICROFINANCE COMPANY “LIME-ZAIM” (LIMITED LIABILITY COMPANY)社（以下「LIME Russia 社」といいます。）が債務保証を行っています。

2. LIME 社グループの現状

(1) 事業活動地域

LIME 社グループはロシア、南アフリカおよびメキシコで個人向けの短期ローンを取扱う金融事業者グループで、ロシア事業がグループ収益の大半を占めます。

(2) LIME 社グループを取り巻く状況

グループ収益の大半を占める LIME Russia 社は、ロシアのウクライナ侵攻直後に、個人向けの融資実行を大幅に絞り込み、事業拡大を前提とした経営計画の見直しなどに着手しました。ウクライナ侵攻から1年超が経過した現時点においては、当初想定したほどロシアのマクロ経済環境の悪化が深刻でないことから、徐々に事業運営を正常化しています。

また資金調達について、エストニアグループ会社をはじめとするロシア国外の債権者が融資をすべて停止したため、代替手段としてロシア国内の銀行借入れなどを確保しました。

(3) LIME 社グループの為替リスクの状況

LIME 社グループは、本ファンドシリーズをはじめ一定の外貨建て債務を抱える一方、収益の大半をロシアルーブル建てで計上しています。現時点ではロシアルーブルの対ユーロ、対円などのレートがロシアのウクライナ侵攻直前よりも高い水準にありますが、今後ロシアルーブルが下落に転じる場合、外貨建て債務の実質的な負担が増して債務返済能力が低下する可能性があります。

(4) LIME 社グループの今後について本営業者の見解

現時点で 2022 年第 4 四半期までの財務諸表を受領・確認し、ウクライナ侵攻直後に想定したほどにはロシアのマクロ経済環境と LIME 社グループの財務内容が悪化しておらず、同侵攻前と同様の規模で事業運営を継続することが可能であると考えます。また、ロシア国内での資金調達によって、資金繰りに関する当面の懸念が後退したとも捉えております。

しかしながら、ウクライナの戦局や日米欧をはじめとする各国の対ロシア経済制裁の動向が流動的ななかで、LIME 社グループの事業環境が悪化に転じる場合やロシアルーブルが対ユーロ、対円で下落に転じる場合には、一定額が回収不能となる可能性があると考えております。

3. 送金規制の影響および代替回収方法について

(1) ロシア国内の送金規制の状況

ロシア・ウクライナ間の戦争が長期化するなか、SWIFT からの排除をはじめとする各国のロシアに対する制裁措置や、ロシア政府およびロシア中央銀行による送金規制の影響が続いており、ロシアからの海外送金は依然、広範に規制されています。一般的に月額 1,000 万ロシアルーブル(日本円で 1,700 万円相当額¹)以内の海外送金が認められる、と伝える報道があるものの、実際にはロシア中央銀行が取引毎に個別判断するものと見られ、特にロシア非友好国に向けての送金が厳しく規制されています。ただし、非友好国向けでなければ海外送金のハードルが下がる可能性を踏まえ、本項(2)に後述のとおり、エストニアグループ会社は、非友好国ではない国を経由した回収を検討しています。

(2) 送金規制を踏まえた代替の回収方法について

エストニアグループ会社は、送金規制を踏まえた代替のルートとしてカザフスタン経由の回収を検討しています。カザフスタンは本営業者グループが法人を置くエストニアや日本とは異なり、ロシア非友好国の指定を受けていないため、同国を介して本件の回収ができる可能性があると考えています。

LIME 社グループはカザフスタンにおいて、2022 年後半に法人を設立し、ロシアルーブルの銀行口座も開設しました。エストニアグループ会社と LIME 社グループは、ロシア中央銀行およびカザフスタンの規制当局より承認を得るため、提出書類を準備しています。これらが受諾されれば、カザフスタンを經由して、ロシアからエストニアグループ会社へ月額 1,000 万ロシアルーブル以内の返済が再開される可能性がございます。ただし、特にロシア中央銀行は海外送金の認否を個別判断しているものと見られ、実際に承認を得られる可能性およびその結論が出る時期が現時点では不透明です。

4. 今後の回収見通し

上述の通り、回収再開の時期および全額回収の可否はいまだ不透明です。

本営業者は 3 か月に一回程度を目安に本ファンドシリーズの最新状況をご報告申し上げる予定です。ただし、本営業者の判断で、3 か月を待たずに速やかにご報告する場合がございます。投資家のみなさまにおかれましては、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

会社概要 (クラウドクレジット・ファンディング合同会社)

【代表社員】 クラウドクレジット株式会社

【設立年月】 2016 年 3 月

【資本金】 1,000,000 円

【住所】 東京都中央区日本橋茅場町一丁目 8 番 1 号

¹ ロシアのウクライナ侵攻後ロシアルーブルの相場は大きく変動しており、1 ロシアルーブル=1.70 円と仮置きして計算しています。